

事業所における児童発達支援自己評価結果

公表:令和 4年 3月 14日

事業所名 赤いふうせんメルヘン

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点、課題や改善すべき点など |
|----------|----|--|----|-----|-----------------------|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 3 | 4 | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 2 | 5 | |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | 4 | 3 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | 4 | 3 | |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 1 | 6 | 今後参加していきたい |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 0 | 7 | 現在利用児童がいない為行っていない |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 5 | 2 | ホームページでは公開しているが、会報はない |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 0 | 7 | 第三者評価は受けていない |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 4 | 3 | |
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 0 | 7 | 現在利用児童がいない為行っていない |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 0 | 7 | 現在利用児童がいない為行っていない |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 0 | 7 | 現在利用児童がいない為行っていない |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | 0 | 7 | 現在利用児童がいない為行っていない |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 1 | 6 | 利用児童がいればしていると思う |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 4 | 3 | |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している | 1 | 6 | 利用児童がいればしていると思う |